



2022年9月豊洲キャンパス本部棟オープン

芝浦建築会 2024

会報

VOL.3

volume

3

芝浦建築会 2024

| C | O | N | T | E | N | T | S |
|-------|---|---------------------------|---|---|---|--------|----|
| 会長挨拶 | | 卒業生の拠り所となる芝浦建築会 | | | | 功刀 強 | 3 |
| 理事長挨拶 | | 芝浦建築会会報に寄せて | | | | 鈴見 健夫 | 4 |
| 校友会寄稿 | | 「芝浦建築会 会報（第3号）」に寄せて | | | | 加藤 善次郎 | 5 |
| 卒業生の輪 | | 建設業界の“明るい未来”への橋渡し | | | | 松枝 直 | 6 |
| | | 「民」から「官」へ | | | | 丸山 晶生 | 6 |
| | | 理系でもセールスという選択肢 | | | | 近江 直樹 | 6 |
| | | 店舗内装の魅力と今後の発展 | | | | 山中 萌 | 6 |
| | | “オーダーメイド” | | | | 石毛 龍 | 7 |
| | | ひとと地域に寄り添う | | | | 佐藤 春樹 | 8 |
| | | 自分の手でモノをつくる | | | | 清水 裕生 | 9 |
| | | いま考えていること | | | | 東出 優子 | 9 |
| | | 駅舎づくりは思い出づくり | | | | 飯嶋 優 | 10 |
| 研究室紹介 | | 終わらない構造設計 | | | | 市川 瑞生 | 10 |
| | | 水平型ネットワークを生み出す芝浦建築会と研究室 | | | | 志村 秀明 | 12 |
| 学科報告 | | 建築材料研究室より | | | | 古賀 純子 | 13 |
| | | 着任のご挨拶 | | | | 中島 直道 | 13 |
| | | 退職にあたっての所感 | | | | 佐々木 真二 | 14 |
| | | 2023年度の学科の状況と学生の活躍 | | | | 秋元 孝之 | 14 |
| | | 2024年度芝浦建築会会費納入者及び寄付者 | | | | | 15 |
| | | イベント写真 | | | | | 16 |
| | | 会計報告 2023年度会計報告 2024年度予算案 | | | | | 16 |
| | | 会費納入のお願い | | | | | 16 |
| | | 2024年役員名簿 | | | | | 16 |
| | | あとがき | | | | 百瀬 和浩 | 16 |



功刀 強（くぬぎ つよし）

1976年 工学部建築学科卒

1978年 大学院修了

今年は1月1日に能登半島地震、羽田空港の航空機衝突事故と波乱の年明けでしたが、会員の皆様如何がお過ごしでしょうか。建築学部建築学科は2024年3月に第4回目の卒業生を送り出し、『芝浦建築会』は専門学校以来把握できている会員数は約15,300名となりました。今年も卒業生が集い・語り・交歓の場になってもらいたいという思いから『卒業生の拠り所となる芝浦建築会』のタイトルとさせて頂きました。

2017年に3コースある建築学部建築学科が誕生しました。これを受け工学部建築学科と建築工学科の卒業生の会は解散し、新たに建築学部建築学科の卒業生の会『芝浦建築会』が2021年12月11日に設立され、2023年6月24日の第2回通常総会において、建築学科以外の卒業生も含め幅広い交流を目指し、芝浦工業大学校友会芝浦建築会支部設立に賛同を頂き、『芝浦建築会』は校友会活動にも参加してゆくことになりました。

『芝浦建築会』は、住所が判明している約10,000名の会員の皆様に会報第1号と会報の要否と総会出席可否のアンケートを同封して送らせて頂きました。約400名の会員から返信が届き、この結果に基づき、昨年度は会報要望者と会費納入者に限って会報2号の発送と卒業年度の学生に配布をさせて頂きました。今年はより多くの会員に『芝浦建築会』の活動を報告し、会の活動を理解し、参加して頂きたいという思いから、過去10年に遡り会費を納入してくれた会員、会報を欲しいという会員と、建築学部建築学科と建築学専攻の在學生に会報を配布することにしました。会報にはアンケートも同封し、会報の要否についての意向調査も行い、会の活動や会報の在り方を探ってゆきたいと考えています。

2023年度の活動を振り返りますと、2023年11月1日に、芝浦工業大学に在学している学生、院生が参加可能なデザインチャンピオンシップの公開審査会が開催されました。出題と審査は建築家であり、九州大学大学院で教鞭もとられている末光弘和先生より、『開くことと閉じることを同時に満たす建築』という課題に応えた提出案に対し、厳正な審査と的確な講評を末光先生にして頂きました。『芝浦建築会』からは松寿幹事と私が参加し、懇親会の最初に『芝浦建築会』はこのイベントを支援していること、参加学生にはこのイベントに参加し、課題に応えることの意義を伝えました。



末光先生による審査風景

2023年12月8日に豊洲での役員会是对面とリモート併用で開催し、会報第2号が発行できたことの報告と学位記・表彰状授与式での芝浦建築会賞の内容を確認し、役員会終了後1年間の役員活動を互いに労いました。

年が明け2024年3月18日に建築学部建築学科及び建築学専攻の学位記・表彰状授与式が豊洲の大講義室にて催されました。各種表彰及び学位記授与の後、卒業生の会を代表し、希望や夢を諦めることなく追いつけてもらいたいというメッセージと共に卒業の祝辞を贈らせてもらいました。

また建築は単なる工学技術の成果ではなく、人文科学や社会科学の知見や成果の賜物であり、卒業してからも広範な知識を身につけ活躍することを期待し、本年度から専門分野は当然のこと、他の分野も積極的に学んだ「最多単位取得者」上位3名に芝浦建築会賞を授与することにしました。

2024年6月14日には、業界研究セミナーが、交流棟の大講義室にて、建築学科3年生と建築学専攻の院生1年生を対象に開催されました。各分野で活躍している本大学卒業生がパネラーとなり、それぞれの仕事の内容を紹介すると共に、仕事に対する信条などについての説明の後、学生との質疑応答の時間が設けられました。最後に私からは建築学部建築学科及び建築学専攻の大学院を卒業することにより卒業生の会『芝浦建築会』に入会でき、このような先輩との交流の機会を得ることができることなどの話を交え挨拶をさせて頂きました。



パネラーの卒業生との集合写真

2024年6月22日には豊洲キャンパス教室棟3階302教室にて、芝浦建築会第3回通常総会及び校友会芝浦建築会支部の通常総会を開催しました。議長は百瀬副会長に、議事録記録人は宮谷幹事に、議事録署名人は川口副会長、浅見幹事を選任し、議事は進められ、全ての議案に賛成を頂き、総会を終えることができました。また来賓として大学からは丁龍鎮（ちよん よんじん）理事と校友会からは本村雅洋校友会副会長にご祝辞を頂きました。記念講演は建築学部教授濱崎仁先生から『歴史的建築物の保存・修復、鉄筋コンクリート造の現状と課題』をテーマに軍艦島の保存への取り組みなどを例に、興味深い講演をして頂きました。その後交流棟2階カフェテリアに移動し、会員でもある鈴見大学理事長、校

友会から加藤交友会長、建築学科の先生はじめ多くの会員に参加して頂き、様々な話題に盛り上がり、和やかなで楽しい懇親会となりました。

『芝浦建築会』は、在学生に対しては励みになる支援活動を行い、卒業生に対しては先輩後輩の交流活動を通し、卒業生の拠り所となる活動を目指して行きたいと思っています。ホームページ等でもお知らせしますが、来年の校友会全国総会は6月7日（土）、『芝浦建築会』の通常総会は6月28日（土）に開催します。友人知人にもお声掛けし積極的に参加し、楽しい時間を過ごして頂きたいと思っています。これからも会員の皆さんの温かいご支援とご協力宜しくお願い申し上げます。 【芝浦建築会会長】



総会後の集合写真

理事長 寄稿

芝浦建築会会報に寄せて

鈴見 健夫（すずみ たけお）

1970年 建築学科卒



芝浦建築会の皆様、ご家族の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。平素は芝浦工業大学の様々な施策や後輩である学生の活動に対しご理解・ご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて本学の創立100周年を迎える2027年まで、あと2年と少しを残すばかりとなりました。いよいよ本学も100年の歴史を有する大学の仲間入りを果たします。私自身、工学部建築学科の卒業生として、この記念すべき年を迎えるにあたり感慨深いものを感じています。東京高等工商学校として商業学科、土木工学科、建築工学科でスタートした芝浦工大の歴史は、卒業生の皆様の栄光の歴史でもあります。艱難辛苦を乗り越えて大きく成長し卒業された皆様が成しえた、仕事に強い芝浦という名声の上に、本学の現在の高い評価があります。100周年を祝う式典には、卒業生と元教職員、その他100年を支えていただいた皆様に多くご臨席いただき旧交を温め、次の100年に向けて新たな希望を共有することのできる良い機会となることを心より願っております。

現在、本学は2027年に向けての長期ビジョン「Centennial SIT Action」に基づき、中期重点経営目標を設定し着実に実現しております。2022年に本部棟を竣工した豊洲キャンパスに続き、大宮キャンパスにおいては2025年12月に予定している新校舎の竣工

を皮切りに、既存施設の更新・拡充を通じて学生のための再整備計画を進めてまいります。利便性のさらなる改善により、学生満足度の向上及び志願者の増加が期待されます。

就職支援のさらなる強化につきましては、初の試みとして2024年1月に帝国ホテル東京にて、芝浦工業大学企業懇談会を開催しました。日本を代表する優良企業全業種の採用担当者を招待し、221社302名のご参加を賜り強固な関係性を構築しました。これを維持発展させるだけでなく、地道な学生サポートも変わらず継続することで、優良企業就職ランキングのさらなる向上を目指します。

さらに本学の特色であるグローバル化のさらなる推進のため、タイのバンコクに駐在員事務所を開設しました。目的は東南アジア地区から本学への正規留学生の拡大と国際共同研究の推進です。現地の優良日本企業とも連携し、魅力ある留学制度を実現いたします。

このように多様な取り組みを通じ、アジア工科大学のトップ10に入るという高い目標を達成することで卒業生の皆様のご期待に応える所存です。皆様のさらなるご支援をよろしくお願い申し上げます。

末筆になりますが、芝浦建築会の皆様ならびにご家族の皆様の益々のご繁栄を心より祈念申し上げます。

【学校法人芝浦工業大学理事長】

加藤 善次郎 (かとう ぜんじろう)

1980年 工学部機械工学科卒



芝浦建築会の皆様、ご家族の皆様におかれましては如何お過ごしでしょうか。2020年1月の新型コロナウイルス感染報道から4年以上の月日が過ぎ、今年に入り日経平均株価も過去最高値を記録するなど、社会生活も平常を取り戻しつつありますが、未だ感染の話聞きます。くれぐれもご自愛頂くよう切に願うばかりです。

今年1月1日に発生しました能登半島地震では、多くの方が犠牲になりました。亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに被災された方々にお見舞いを申し上げます。また、今年9月には能登半島豪雨災害に見舞われ、重ね重ねの被災に対し心よりお見舞い申し上げます。石川支部長の多田さんは建築学科を卒業され、1月の震災以来卒業生の安否の確認に奔走して頂きました。この場をお借りして御礼をお伝え申し上げます。

芝浦建築会会報への寄稿は昨年に続き2回目になります。昨年も申し上げましたが、校友会は、建築学部創設以来、旧建築学科、旧建築工学科の両卒業生を中心とした卒業生の会の設立を切に願っておりました。功刀会長はじめ多くの先輩方のご努力により2021年12月に「芝浦建築会」を設立、2022年12月校友会支部として船出を切って頂きました。改めて御礼を申し上げます。

校友会として芝浦建築会にお願いがございます。校友会の支部は、地域支部、海外支部、職域支部及び同好支部の96支部から成り立っていますが、建設会社を中心とした職域支部の多くが支部活動を行っており、いわゆる休眠支部化しております。校友会としては2027年大学の創立100周年に向けて支部の活性化を目的に総点検を組織委員会を中心に今年より行っております。休眠支部の統廃合、廃止も検討する予定です。それら建設会社を中心とした休眠職域支部に在籍しています会員の吸収を是非行って頂き、校友の拠り所となって頂きたいと願っています。具体的なことは本村組織委員長より近々に相談があるかと思いますが、是非ご協力の程、宜しく願い申し上げます。

そして来年の全国総会、懇親会ですが、6月7日(土)(例年と違って第一土曜日です)に今年と同じ、ゆりかもめ台場駅直結のグランドニッコー東京台場で開催されることが決定しました。事前に皆様にご報告させて頂きますとともに、再会を楽しみにしております。また、2027年創立100周年の全国総会、懇親会は、1,000人規模の会を目指し、皆様方には絶大なるご支援、ご協力をお願いする次第です。

最後に芝浦建築会の皆様、ご家族の皆様のご繁栄、ご健勝を心からご祈念申し上げます。

【芝浦工業大学校友会会長】

◆お知らせ◆ 是非ご参加お願いします。

○2025年6月7日(土)

校友会全国総会 グランドニッコー東京台場

○2025年6月28日(土)

芝浦建築界通常総会 豊洲キャンパス

卒業生の輪

建設業界の“明るい未来”への橋渡し

松枝 直（まつえだ ただし）

2013年 建築工学科卒（蟹沢研究室）



私は、幼い頃にお寺や重要文化財などの日本の伝統建築に触れたことをきっかけに、大工になる夢を抱いてきました。まさに、伝統的な建築技術と美学に魅了され、日本の建築文化を守りながら次世代へ受け継いでゆくべく、大学では蟹沢研究室で伝統建築について学びました。

もともと伝統建築の保護に関わるような仕事に就きたいと考えていたので、大学を卒業後は竹中工務店に入社しました。そこでは、自分の仕事が形に残ることにやりがいを感じる一方で、建設業界の実態も目の当たりにすることとなります。世の中にデジタルツールが普及していく中でも建設業界は未だに非効率的で、時には過度に煩雑な手続きによって長時間労働が強いられていることに気が付きました。それから、自ら志願して新規事業を立ち上げる部署に配属をしていただき、建設業界をデジタルの力をもってして変革することに情熱を持つようになりました。

その中で、特に私自身が現場に勤めていた時に課題と感じていた現場業務を効率化するサービスの立ち上げを担う新規事業部に所属していました。ですが、結果的に予算や期間的な理由から上手くいきませんでした。ただ、私自身がプログラミングスキルを習得していたので、自分でサービスを作ってみようと思い、会社を立ち上げることとなります。現在は、「建機レンタル品の今を変える」をミッションに、建設会社とレンタル会社をデジタルプラットフォームで繋ぎ、従来のアナログな業務を効率化するサービス「Arch Rental Platform」を展開しています。

我々は「Arch」を通して、建設業界と建機レンタル業界が共栄するWin-Winな関係を目指しています。真の建設DXが実現されれば、建設業界は圧倒的に合理的かつ、人間味もしっかり残っている業界になるはずです。そうなれば、多くの方が興味を持ち、憧れてくれる業界になると考えています。我々の事業でそんな未来の実現を後押ししていきたいです。 【株式会社 Arch】

「民」から「官」へ

丸山 晶生（まるやま あきお）

2013年 建築工学科卒（木本研究室）



大学時代には、木本研究室に所属し研究テーマとして、公共工事の一般競争入札に係る総合評価落札方式に関する研究を行っていました。当時から公共工事に興味があったわけではありませんが、数字で分析する研究テーマであったため自分に合った研究だと思い取り組んでいました。

就職活動の企業研究やインターンシップを通じて、現場で建物をつくる仕事に就きたいと考え、大成建設株式会社へ入社しました。現場監督として約6年間に病院、物流倉庫、火力発電所、集合住宅、テーマパークなど8つの現場に携わりました。現場監督は、工程管理・品質管理・安全管理など業務は多岐に渡りますが、その分達成感が大きくやりがいのある職業だと思います。市立病院の現場に携わった際に、発注者である市役所職員の方との話から刺激を受け、民間企業で培った技術力を官公庁の立場から活かしたいと思い、地元の市役所を目指すことにしました。

現在は埼玉県狭山市役所の市街地整備課の入曽駅周辺整備担当に所属しています。担当では、入曽駅前の交通機能の充実・安全性の向上や駅周辺の回遊性促進、入間小学校跡地に民間活力を活かし地域の活性化を図るため、土地区画整理事業という手法を用いて整備を行っています。その中で私は、駅前広場や道路の工事に関係する設計・発注から工事監理、東西自由通路・橋上駅舎に関係する打合せなどを行っています。実際に使う人たちのことを想像し、どうしたらより使い勝手が良いものになるか、各課との協議や調整など大変な部分はありますが、民間で培った知識を活かして業務に取り組んでいます。1年間の流れとして、上半期は工事発注業務や打合せなどのデスクワークが大変を占め、下半期には、上半期に発注した工事の進捗状況の確認や調整、検査などで現場に出る機会が増えるといった形で、工事の発注状況によって変わってきます。技術系の市役所職員の方が大半が民間経験者であり、官公庁の技術力は民間の力により支えられている部分が大変大きいと感じました。 【狭山市役所（埼玉県）】

理系でもセールスという選択肢

近江 直樹（おうみ なおき）

2013年 建築工学科卒（木本研究室）



建築系の道に進もうと決めたまっかけは、正直申し上げて浅はかなものでした。

テレビ番組などでカッコいい建築家の姿を見たことがあったし、自分は絵がそこそこ得意だしデザインを仕事にできたらいいな、といった程度の考えで建築系の学科を志望しました。しかし大学に入ると皆建築に対する意識が高く、早々に自分には建築デザインで食べていくのは無理（そこまでの熱量がない）と気づきました。

その後、木本先生が教鞭をとる「建築経済・生産」という分野で、BIMに関する研究を先輩方が行っていたのを見て、先進的だと思い興味を持ち、卒論ではBIMとモデルチェッカーに関する論文を執筆しました。

一方で、学部卒レベルでBIM関連の仕事に着けるほど私の知識は深くないとわかっていたため、就職活動としてはごく一般的なハウスメーカー志望で、現在の会社に入社します。

ハウスメーカーに技術職で就職する人は多かったですが、私が選んだのは「営業」でした。理系の大学を出ていながら営業か、という気持ちもありましたが、設計や施工の仕事よりも興味がありませんでした。

注文住宅のセールスの魅力は、仕事の進め方が自由であることだと思います。

顧客の発掘から商談、契約、着工、引渡までを担当しますが、どのように発掘するか、どんな資料を使って、どんなプランで、どんなプレゼンテーションを行うかは全て自分で決める、案外クリエイティブな仕事です。芝浦工大で学んだ様々なことを、生かすことができていると感じます。

部下を持つようになってからはマネジメント業務も兼任するようになり、自拠点の毎月の契約・売上の進捗管理、プロセス指標管理、労務管理、イベントの管理、部下のクレーム対応をしつつ自分もプレイヤーとして活動するため、忙しい日々を送っています。やりがいもあり楽しい仕事ですが、もともとは35歳までにキャリアチェンジをしようと考えていたので、今後自分がどうなるかはまだ未定です。1度きりの人生ですので自分の気持ちや家族を大事に、仕事と向き合っていきたいと思います。

【東京セキスイハイム株式会社】

店舗内装の魅力と今後の発展

山中（旧姓 濱田） 萌（やまなか もえ）

2013年 建築工学科卒（赤堀研究室）



私は、内装業を営む父を見て育ち、ものづくりに興味もあり、自然と建築の道に進みました。大学では赤堀研究室に所属し、意匠設計を中心に学ばせて頂きました。

就職活動では、幼い頃から親しみのあった内装業界を志望し、現在も所属している会社に入社を致しました。入社11年目となります。所属している会社には、芝浦工大出身の方も多く在籍しており、会社では芝生会という会を作り、定期的に懇親会（飲み会）を行っております。

私は入社以来、全国展開をしているテナント様を中心に、営業・設計・場合によっては施工監理も行なっております。内装業界はスピード感があり、テナントの施工は主に2週間から3ヶ月程が多く、1年間で数多くの多種多様な物件に携わる事ができる事が仕事をしている上での魅力の一つだと感じています。また、店舗の設計に携わっていると、レイアウトやデザインが売上に直結することが多く、数字となって結果がみえることが、私にとっては成果として喜びを感じる瞬間でもあります。

近年では、テナント設計から派生し、とある県の競争入札を経て、アンテナショップの設計・営業の担当を致しました。アンテナショップでは、その土地の素材や工芸品を使い、県の魅力を発

信することに取り組みました。テナント設計は、店舗の商品を引き立てることや、飲食店では居心地の良さやコンセプトを忠実に表現することを求められます。また、「人を呼び込むデザイン」を求められる場面も多くあります。近年では、病院・保育園・スポーツジム・学生（社員）食堂など異業種からも、人を呼び込む為、商業で培ったデザイン力を求められることが多くなってきております。

今後も常に新しい情報をキャッチし、これまでの商業で培った経験を、様々な分野へ波及させられるようにしたいと考えております。

【株式会社パルコスペースシステムズ】



“オーダーメイド”

石毛 龍（いしげりゅう）

2013年 建築工学科卒（赤堀研究室）

「みなさんはオーダーメイドで自分のものをつくった事がありますか。」

在学時代、八束はじめ教授が講義の中で、私たちに問いかけてくれた質問です。この質問を投げかけられた時、当時の私の頭の中には、野球に打ち込んだ高校時代、お正月の年賀状配達のアルバイトで貯めたお金で買った、オーダーメイドのグローブが頭に浮かんでいました。

2015年に芝浦工業大学大学院を卒業した後、アトリエ設計事務所に約6年間勤め、その後フリーランスに転身。それを機に、設計に加え、それまで興味のあったものづくりの現場側の世界に足を踏み入れるため工務店のドアを叩きました。

その工務店では、所属する大工さんと共に木造の改修～防音内装～造作家具製作などを経験させていただきました。最初は荷物運びのお手伝いから始まり、案件を重ねていく中で、設計のバックグラウンドがあったこともあり、図面を引かせてもらいつつ、大工さんと共に製作・納品までさせてもらえるようになりました。

現在は個人事業主として主に設計の仕事をお願いしつつ、一方で、ものづくりに携わる方々からいただく「名もなきものづくり」の仕事に携わっています。

「名もなきものづくり」と呼ぶのは、これらの案件がリクエストを受けた時点では、一つの一般名称で表せるものでは無かったり、まだ作り方も定かでは無かったりするからです。

これらの依頼をしてくれるのは、設計やプロダクト製作の専門家です。私はデザインや工法について、時には設計者の目線から、時には施工者の目線から、これまでの知見の共有や、モックアップを作りながら議論を重ね、実際の製作を担っています。

冒頭の八束教授の問いかけに戻ります。あの問いかけに対し、今の私には、携わってきたプロジェクトや、声をかけてくれた方々の顔が思い浮かぶようになってきました。

このようなものづくりが必要な際には、ぜひお声かけをお待ちしています。



ARUNŌのBINGO (棚)：設計者・プロダクトデザイナーと協働し、設計から現場設置まで一貫したプロジェクトとして実施した。



M邸の窓辺：家族の居場所になる大きな遊具のようなベンチ。その下にはこどものおもちゃが大量に収納される。



間仕切りのための実験：大量の穴を開けた合板（左）大量の薄ベニヤ板を貼った合板（右）モック製作の途中では、想定していたものを超えるときがある。

ひとと地域に寄り添う

佐藤 春樹 (さとう はるき)

2012年 建築工学科卒 (赤堀研究室)

2014年 大学院修了 (赤堀研究室)



私は、組織設計事務所にて公共建築や物流施設を中心に様々な建築を設計しています。用途や規模に関わらず「ひとの居場所」「地域へのふるまい」を常に考えて建築と向き合っています。建築の内部空間だけでなく、外部空間への繋がりや拡がり大切に、その地域に根ざし未来に続いていくような建築を日々目指しています。

思い返すと大学に入った当初は、ただ与えられた課題をこなす日々を送っていました。建築を見に行くのは楽しく刺激的であり、設計課題も楽しかったのですが、なにか物足りないもどかしい思いをしていた記憶があります。

大学2年生の時に、スペインとフランスの建築を巡る海外研修に参加しました。ビルバオのグッゲンハイム美術館を中心とした街並みの美しさ、人が中心の街と居心地の良さに驚き、パリのノートルダム大聖堂では内部空間に入った瞬間に雰囲気によって自然と涙が出たことを鮮明に覚えています。

当時は感覚だけでしたが、建築そのものの力強さ、人と人や街、環境や文化を繋いでいく素晴らしさを感じた瞬間であり、自分の中で大きな転機となりました。

その後は、先輩とグループで茶室を設計し施工するプロジェクトに参加したり、来る日も来る日も大学に泊まり込み設計課題に没頭していました。議論していく中で、視点が変わり新たなアイデアが生まれ、作品がアップデートされていく瞬間は本当に楽しくワクワクする時間でした。先輩後輩友人関係なく、あの場所で多くの時間を過ごし言葉を交わした日々が今の私の土台となっています。

赤堀研では設計課題のエスキースやコンペ、短期留学などを通じてここには描ききれないくらい多くの事を学ぶことができました。その中で赤堀先生は常に建築だけでなく、広い領域を横断し、自分に足りない部分のアドバイスをしてくれました。

とある物流施設の設計で、冒頭の2つの大切にしていることを軸に、地域に根ざす建築を提案しました。大規模な倉庫としてどのように地域に結びつくか、またその場所と人をどのように結んでいくかを考え抜き、小さなスケールのインテリアから建物外部までを横断して「地域」に寄り添ったプロジェクトとなりました。お客様に喜んでもらったことはもちろん、大学・研究室で学んだことと実務が自分の中で繋がり、とても嬉しく思いました。「新」建築設計資料06」という書籍にも、考えてきたことが評価され掲載されることとなりました。

考えてきたことを大切にしながらも、チャレンジしていきたいと思えます。

【株式会社横河建築設計事務所】

自分の手でモノをつくる

清水 裕生（しみず ゆうき）

2012年 建築工学科卒（秋元研究室）



私は都内の工場で看板の製作をしております。製作といってもかなり幅広いですが、簡単に言うと一枚の板金やパイプなどから看板が完成するまで自分の手でつくりあげる仕事です。

元々私は環境分野やエネルギー関連に興味があり、大学時代は秋元先生の研究室で建築設備分野について学ばせて頂きました。その後、ゼネコンの設備職に就職し建築設備設計や現場管理の仕事をする中で、ショッピングモールや消防署、大型マンションなどの大きなものづくりに携わりました。

ゼネコンでの仕事はとてもやりがいがあったのですが、働いている中で自分が本当にやりたいことは自分の手でモノをつくることだと思えるようになりました。そう思ったのも現在の看板製作の仕事を支えた父の影響が大きかったのだと思います。

ゼネコンを退社後、父の営む工場を継ぐことを決め看板製作の仕事を始めました。大きな企業から下町の工場へとキャリアを移したギャップはかなりありましたが、前職で培った経験を生かせることも多く、何よりものづくりの楽しさを感じることができました。自分の良く知っている企業やブランドのサイン、再開発が進むランドマークのサイン、時には店舗の什器や内外装の金物、照明器具など製作する内容も様々で基本的にすべてオーダーメイドなので同じものをつくることはほとんどありません。オーダーメイドだからこそ毎回悩むことも多いですが、試行錯誤を重ねていったものが街中に綺麗に馴染んでいるのを見かけた際はとてもやりがいを感じます。

最近では大学時代の友人の紹介からアーティストの方の作品づくりや有名ブランドのインスタレーション作品など看板だけに捕らわれず様々なものに携わらせて頂く機会があり、作品に対する発想や思いを直接聞かせて頂くことで、その思いを限りなく再現し形にすることが私にできることなのだと感じています。また友人から開業する際の相談を受けることも多く、身近な人の人生の分岐点に関われることも嬉しく思います。



Sta.麻布台（サイン製作）



NIKELAB RADIO*（アンテナ型オブジェ製作）

【有限会社エムエス美創】

いま考えていること

東出 優子（ひがしで ゆうこ）

2012年 建築工学科卒（赤堀研究室）



建築は完成するまでに、長い時間がかかります。毎日建築と向き合い続けるのは、本当に大変。けどその時間が、少しでもみなさんにとってあたたかいものになればと思い、この文章を書きたいと思います。

赤堀研究室を卒業後、外部の大学院に進学し、アトリエ事務所働き始めてから、今年で11年目になります。うまくいかない時期もたくさんあったし、今でも自問自答と反省の繰り返しです。

でもここ数年、自分自身が建築を本当に好きになっていることを感じるようになりました。

師とお世話になった現場監督にいただいた、大切にしている言葉が3つあります。

「何かを解決しようとするんじゃなくて、こんな未来があってもいいんじゃないかを語ること」

「一度大切にすると決めたなら、うまくいかないことも投げ出さないこと」

「現場の空気をつくるのはあなた。ものだけじゃなく、人間に対する愛と責任感をもつこと」

こう並べてみると、どれもその向こう側に人がいるように感じます。

うまくいかないことを、投げ出さないこと。

それには勇気がいります。信じる勇気。もう一度前に踏み出す勇気。

自分ひとりじゃ到底そんなエネルギーが出てこないときは、まわりの大切なものや人を思い出しています。

今日も暑い中、朝早くから遅くまで、弱音も言わずに現場で戦い

続けてくれている人。
思いや夢を託して、待っていてくれる人。
そんな自分にとってかけがえのない人たちを思うと、強くなれる
気がします。
うまくいかないときも、大切な人から逃げたくはないです。
こんな未来があってもいいんじゃないかを、遠回りしながら一緒
に見つけていきたい。
建築人である前にまずはひとりの人間として、目の前の人を思い、
向き合える、
愛と感謝と礼儀を持った人間でいたいです。

建築は大変。でもいつだってひとりじゃないです。
どんなときも必ず、同じように未来を叶えようとしてくれている
人たちとつながっています。
自分の心のときめきに正直に、そしてそれを信じて、まわりの人
を思う気持ち。
そんな純粋な愛情や思いやりが、建築という美しく愛情深いもの
の素晴らしさと、その先の未来を描く力強さにもつながっている
と、建築は夢にあふれていると、私は信じています。

【西沢立衛建築設計事務所】

駅舎づくりは思い出づくり

飯嶋 優（いじま まさる）

2011年 建築工学科卒（赤堀研究室）

2013年 大学院修了（赤堀研究室）



2013年の卒業後、駅舎を扱う組織設計事務所に勤務して11年
になります。

駅舎は人々の出会い/別れ、巣立ち/帰郷などの印象的な場面
の受け皿になったりします。私はそんな風に人々の思い出の一部
になり得る駅舎を大事に作ってきたいという想いで今の仕事に
ついていきます。

駅舎にまつわる私自身の体験として、地元長野駅の姿の変遷が
あります。幼少期の長野駅は合掌造りで威厳ある三代目駅舎。セ
ピア色のぼやぼやした記憶ですが、幼いながらに地元の駅の顔と
して誇らしい存在に感じていました。その後、冬季オリンピック、
長野新幹線開通に向けた改修で合掌造りの駅舎は姿を消します。
まちは活気づいていく一方で、大切な駅舎が無くなってしまった
喪失感がありました。

それから時は流れ、北陸新幹線延伸線の開業と合わせて進められ
た長野駅善光寺口開発の一部（自由通路と観光案内所）に設計者
として携わることになりました。新幹線改札を出て最初に目にす
る空間の一部を担当しています。訪れた人が信州の地に降り立っ
たことを実感できるような作りを目指しました。幼いころに感じ
た喪失感が、新しい駅舎の姿で穴埋めされる充足感は言葉にしが
たい喜びでした。この時、地元のために汗をかいた時間が私の原
点です。

設計事務所の仕事とは別に、「地元で何かをしたい」という想
いを持った高校の同級生と小さな平屋の一軒家を、壊したり直し
たりしながら、「何かの拠点」を目指して取り組んでいます。こ
んなことがしたいと相談すると親身に乘ってくれたり、現地に駆
けつけてくれたり、と芝浦卒業生の繋がりには度々救われていま
す。皆さんいつもありがとうございます。これからもよろしくお
願いします！

【株式会社 JR東日本建築設計】

終わらない構造設計

市川 瑞生（いちかわ みずき）

2015年 建築学科卒（小澤研究室）

2017年 大学院修了（小澤研究室）



ゼネコンに就職して構造設計に携わるようになってから、早7
年が経ちました。

これまで設計に携わった建物はオフィスビルや工場、物流施設
など。ここでは語りたくないミスも数えきれないほどにあります
が、社内外問わず多くの人たちと協力して無事竣工を迎えてきま
した。

思い返してみれば、構造設計という職を知ったのは大学時代の
ことです。

テレビ番組の影響で店舗や住宅のインテリアデザインに興味を
持ち建築系の学科に進学しましたが、意匠設計を本気で志す同期
たちの（睡眠時間を極限まで削り製作にすべてを捧げる）熱意に
「ここでは戦えない」と感じて、元々物理が得意だったこともあり
構造系の研究室に入りました。結果としてあの時の選択は正し
かったなと今は感じています。

リクルート活動の一環で弊社に興味を持ってくださった学生と
お話する機会が毎年何度かありますが、話すたびに自分が就職活
動をしていた頃を思い出します。どうしてゼネコンの構造設計職
を選んだのか、どうして今の会社に入りたいと思ったのか。

学生の「なぜ」に自分なりに答えながら、初心を思い出す良い
きっかけになっています。

構造設計者として8年目、まだまだひよっこです。10年であ
うやく一人前、なんて言葉を聞いたこともあります。構造設計部
に配属されて2、3年目のころは「そんなものかあ」と漠然と受
け止めていましたが、今となっては「まだ何もかもが足りなすぎ
る」。広大な伸びしろを感じつつ、自分のできる限りで一步步
成長していきたいです。技術も日々進歩していきますし、学びが
終わることはないと思うと、建築ってやはり奥が深い。やればや
るほど、分からないことが増えていく日々です。

夢を語れと言われると正直難しいですが、もうしばらく構造設
計職として頑張りたいと思います。

【前田建設工業株式会社】

研究室紹介

水平型ネットワークを生み出す 芝浦建築会と研究室

志村 秀明（しむら ひであき）

地域デザイン研究室



現代は「ネットワークの時代」と言われますが、人間社会でのネットワークの形成は今に始まったことではありません。ニール・ファーガソン『スクエア・アンド・タワー』（東洋経済新報社、2019）に詳述されていますが、ネットワークは古代から世界各地で形成され、権力による「階層型社会」の陰で社会を動かしてきたと言われていました。農村社会が基盤の日本においても、網野善彦『日本社会の歴史』（岩波書店、1997）で論じられている通り、多様なネットワークが国家とせめぎ合ってきました。

大学は、学術研究を通じて、権力とは一線を画した「水平方向に展開するネットワーク」を生み出す揺籠と言われていました。芝浦建築会も、そのようなネットワークが期待されていますが、具体的にはどのようなネットワークが期待されているのでしょうか。第一に、芝浦工業大学で学び合った卒業生の「緩やかなネッ

トワーク」だと思います。業界団体のような強い繋がりではなく、インターネットやSNSの発達により、「繋がっては切れ、必要な時や何かの機会にまた繋がる」ネットワーク形成が可能となったことが背景にあります。第二に、スーパーグローバル大学に相応しく、国境をこえたグローバルに繋がるネットワークでしょう。国際会議や研究会といった学術の繋がりに加えて、多くの派遣・受入留学生の存在がそれを可能にしています。第三に、工学の領域を超えた繋がりへと広がるネットワークだと思います。芝浦建築会と共に生まれた建築学部と大学院建築学専攻がそれを可能にします。

地域デザイン研究室は、各地でのまちづくりの実践を通じて研究していますが、結果として学生や卒業生に加えて、各地の専門家、行政、市民とネットワークを築いています。江東区豊洲の運河クルーズやゴムボートレース、船カフェ、中央区佃・月島での歴史的建築物の活用と「地域雑誌 佃・月島」の発行、福島県南会津町館岩地区での集落再生支援活動は、総括するとどれも大学生、専門家、行政、市民からなる「水平型ネットワーク」を強化する取り組みだと考えています。そこでは芝浦工業大学の卒業生とも数多く出会います。芝浦建築会のネットワークは、様々な研究室のネットワークと相互補完的な関係にあると思います。卒業生が社会で伸び伸びと活躍できるために、階層型ではない、自己組織的で緩やかな水平型の繋がりを実現しましょう。



ゴムボートレース



船カフェ



地域雑誌 佃・月島



月島 長屋リノベーション



南会津町集落再生支援活動

建築材料研究室より

古賀 純子（こが じゅんこ）
建築材料研究室



建築材料研究室では、仕上げ材料を中心とした材料・部材の性能評価に取り組んでいます。研究室では一人一人がテーマを持ち研究を実施します。床、壁、防水など研究対象は広く、自身のテーマだけでなく他の学生の実験にも参加するとさらに視野が広がります。本稿では、研究室で取り組んでいる研究の中から外装木材の外観変化について紹介します。

近年、木材の利用が推進されているなか、外装で木材が用いられる例が増えています。木材は水濡れにより変色や退色が発生します。さらに時間を経ると腐朽が発生します。このため外装に用いる場合はその後の変化を理解して使う必要があります。では、どう変化するのか、を知るために木材の経年変化の研究を行っています。複数の実建築物で外装の経年調査を行い、維持管理の考え方を模索しています。屋外暴露試験もおおよそ4年が経過し経年状況に関するデータの蓄積が進んできました。一方で、木材は一本一本性質が異なるために研究が一筋縄ではいかない面もあり、より一層面白さを感じています。その他に、床の摩耗に関する研究、石綿含有建材の安全な改修・解体工法の研究などに取り組んでいます。

また、2024年度は大学院生3名が初めての英語での研究発表に取り組みました。「やってみようか」と声をかけた時には気が進まない様子でしたが、「学生だから失敗してもいいじゃない?」と粘り強く誘った結果シンポジウムに参加することとなり、全員無事に発表をやり遂げました。1名は学生発表賞を頂き、研究室としてうれしい成果となりました。

学生時代の挑戦はいずれ大きく実を結び自分に戻ってきます。学生諸君にはこれからも力強く前進してほしいと心から応援しています。

芝浦建築会の皆様も在学生および若手の卒業生を温かく見守っていただきますよう今後もご支援をお願い申し上げます。

着任のご挨拶

中島 直道（なかじま なおみち）
建築学部建築学科特任講師



2024年の春より特任講師として着任しました。大学院を修了して初めての教員職の機会をこの芝浦工業大学にただけましたことを光栄に存じます。私は現在数学科目を担当しておりますが、大学で数学を学ぶ前には、高専にて電気電子工学を学んでおりました。そこでは回路設計やロボット製作といったものづくりを行ない、分野は異なりますが、ものづくりに励む学生の皆さんの姿には懐かしさを覚えます。こういった点でも、今回ご縁がありましたことを改めて大変嬉しく思います。

さて、数学を専門とする私は、大学院からはAIを理論的に研究するための数学的理論を作る研究を行っています。これは数学に限らず、統計学や物理学、機械学習などの幅広い分野を横断するもので、研究活動を通じて日々、数学の持つ科学を支える底力を実感しております。授業においても、最低限の計算方法を押さえることはもちろんですが、数学を専門としない学生にとっては、自身の専門分野に波及するような知識や考え方こそが重要であると考えております。建築に現れる数学を紹介した際には、それまでの授業とは打って変わって（苦笑）、興味を持って聞いてくれたように記憶しています。授業後の質問にも積極的に、真剣に話す学生の顔を見ると、改めて自分は建築学部に来たのだと実感いたします。

一つ例を挙げますと、法隆寺金堂の照り屋根にも見られるサイクロイド曲線（球がある曲線上を転がり落ちる際に最も速く転がる曲線）は、雨粒を効率良く落とすための構造を持ちます。また、「最速下降」の性質を持つこの曲線を上下逆さまにして得られるアーチ構造は、いわば「最遅下降」を体現するものとみなされ、自然光が屋根に伝って無限に遅れて降り注ぐことを表現する手段としてルイス・カーンによってキンベル美術館の建設に用いられたそうです。これは雨粒を効率良く排除する実利的あるいは技術的要請とはまた違った、数学的概念を再解釈して表現に用いた例として大変興味深いものです。

AI技術の加速とともに、ますます利便性や効率性が追求されていく中で、このような深い洞察をもたらす教養的感覚は時代に左右されない本質的なアイデアを生み出す力になると考えています。これは学生の皆さんにも大切にして欲しいと思っていることの一つであり、これからも、この理念を根底に据えて教育活動に努めていきたいと考えております。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

退職にあたっての所感

佐々木 真二（ささき しんじ）

大阪公立大学数学研究所特別研究員
芝浦工業大学非常勤講師



2019年4月から2024年3月まで5年間、特任講師として数学科目を担当させていただきました。高い学力とともに入学してくる学生が多く、一年生向けの授業では苦労することはほとんどなくて、非常に楽しい時間を過ごさせていただきました。

一方で着任当初、発足して間もなかった建築学部建築学科において、基礎教養としての数学・自然科学の教育のあり方を固めていかなければいけない状況だったかと思います。しかし力及ばず、学生の数理科目離れが極端に進んでしまう結果となりました。もちろん、建築学の広がりを考えれば、数学や自然科学を扱う科目に時間をかけていられないような学生もある程度いるのは自然なことかと思います。しかし、それなりの数理能力が要求される建築工学分野（や意匠設計分野の一部）の人材も育てなければ（育てなければ）ならないことを鑑みると、数理科目離れが許容できないレベルまで進んでしまい、非常に申し訳なく思います。（また、建築物を通じて建築業界に命を預けなければならない身としては、不安にも思います。）最終年度（2023年度）頃には多くの先生の尽力によって、状況はだいぶ良い方向に向かい出したように感じます。学生の数理科目の学習の充実により、建築工学分野の教育・研究が（教える側にとっても教わる側にとっても）より充実したものになるはずです。そして、すでに学生の活躍が著しい建築設計分野も含めて、すべての建築分野でより高いレベルの教育・研究・人材育成が行われるような機関になることを期待しています。

私個人の研究に関しては、好きに数学の研究をさせていただき、感謝しています。在任中はなかなかうまくいかないことが多かったのですが、最近になって、少しずつではありますが、良い結果が出てきました。恩返しとすべく、これらをきちんと形にしつつ、さらに研究を進めていく所存です。

2023年度の学科の近況と学生の活躍

秋元 孝之（あきもと たかし）

建築学部長 建築学科教授



2024年3月、建築学部建築学科の学部生238名と理工学研究科建築学専攻の大学院生145名が、巣立っていきました。卒業式は、2024年3月18日に東京国際フォーラムで実施され、建築学科の学部卒業生と大学院修了生はその後、豊洲キャンパスの大講義室に戻り、学位記授与式に参列しました。この式では、卒業研究、学業成績の優秀者の表彰も行いました。芝浦建築会の功刀強会長、百瀬和弘副会長にもご出席頂き、祝辞を頂戴すると共に今年度から創設された芝浦建築会賞を授与頂きました。

2023年度建築学部建築学科卒業生の学業成績優秀者は、以下の通りです。また、卒業研究優秀各賞、修士論文優秀各賞は表1の通りです。

学業成績最優秀賞・総代 伊吾田 由菜

学業成績優秀賞・有元賞 布川 雲望 上村 遥 村松 航洋

学業成績優秀賞賞名 田村 彩華 田中 里奈 岡 千咲

小池 珠千子 金子 智哉 山後 彩葉

小島 瑚子 藤澤 悠介 鈴木 創大

土屋 友朗

芝浦の建築系学生向けの設計コンペであるデザインチャンピオンシップでは、九州大学大学院准教授であり株式会社SUEP.を共同主宰する建築家 末光弘和先生を審査員にお迎えし、2023年11月1日に実施されました。コンペ終了後には、芝浦建築会にご後援頂き、懇親会を実施しました。ありがとうございました。末光先生、功刀会長、教員、参加学生の交流を深めることができ、有意義な会となりました。

卒業生が関わるイベントとしては、業界研究セミナーを2023年10月24日と11月21日の2回に渡り実施しました。総勢9名の卒業生に協力頂き、現役学生向けの講演を行って頂きました。講演者は表2の通りです。様々な建築分野で活躍する卒業生から、自身の職種について紹介いただくのと同時に、現役学生に向けてのメッセージを頂きました。こうした取り組みにより、現役学生と卒業生の会の交流が深まればと思います。卒業生の皆さまには、こうした会への参加、講演などをお願いすることもあるかと思えます。今後ともどうぞよろしくお願い致します。

表 1 卒業研究優秀各賞、修士論文優秀各賞

建築学部建築学科

| | | | | | |
|----------------------------------|---------|---|-------|--------|-------|
| 業績最優秀賞・総代 | 伊吾田 由菜 | | | | |
| 学業成績優秀賞・有元賞 | 布川 雲望 | | | | |
| | 上村 遼 | | | | |
| | 村松 航洋 | | | | |
| 学業成績優秀賞 | 田村 彩華 | 田中 里奈 | 岡 千咲 | 小池 珠千子 | 金子 智哉 |
| | 山後 彩菜 | 小島 瑚子 | 藤澤 悠介 | 鈴木 創大 | 土屋 友朗 |
| 卒業設計最優秀賞・三浦元秀記念賞 ・AP コース卒業設計賞 | 松山 こと子 | 重度障児の旅ー対比でつくる共生の回遊ー | | | |
| 卒業設計優秀賞 | 菊地 瑛人 | 大衆伝統工芸の逆再生シアターー可視領域分析の演繹的手法による形態導出ー | | | |
| | 中西 さくら | 感性の眼と知性の眼ー心象と伏線の立体交錯駅ー | | | |
| | 松野 真翔 | form from flowー建築を流通するプロセスとして試考する。人口縮小する地 方都市の統合小学校を例にー | | | |
| | 小野寺 慧一郎 | 峠の学び場ー共に暮らす山村留学施設の提案ー | | | |
| | 小松 賢 | 積み重ねるまちの美術館ーやきものまち、信楽（しがらき）の記憶と未来の 建築ー | | | |
| | 奈須 遥香 | 興国寺城跡の学び場ー5%の復元と新しい学びのかたちー | | | |
| 卒業設計奨励賞 | 田村 彩華 | 城跡大食堂ー近世城跡文教工エリアにおける「食」の循環施設ー | | | |
| | 服部 和 | ブンジンたちのいるところーオクシモロンの空間の導入による多様性を尊重する学校建築の提案ー | | | |
| | 星野 秀斗 | 都市ノ裸体ー温浴建築による都市の隠れた身体性の獲得ー | | | |
| | 藤澤 悠介 | 『母、或いは街』ー守られながらも開かれた母子寮の提案ー | | | |
| | 村社 直紀 | リアカーによるエコツーリズムー可動産建築の可能性ー | | | |
| | 渡瀬 圭都 | 団地図書館 | | | |
| | 本村 祐樹 | 第3のモビリティベースー自作ワンマイルモビリティを用いた多摩ニュータウン内の分断解消の提案ー | | | |
| AP コース卒業設計賞 | 松山 こと子 | 重度障児の旅ー対比でつくる共生の回遊ー | | | |
| 卒業論文優秀賞 | 古屋 悠里 | スラム街の空間におけるジェンダーに関する研究ーパンコク・クロントイ地区を対象としてー | | | |
| | 後藤 千汰 | 春日座大工の記録した「春日造ノ小社丈尺記」の研究 | | | |
| | 齋藤 睦己 | プレイパークの普及促進に関する研究 北浜こども冒険ひろばとしながわこども冒険 ひろばを事例として | | | |
| | 小貫 みさき | 建築空間の照明による色の見えの指標と主観評価に関する研究 | | | |
| | 船曳 彩香 | 建設技能者の技能習得に関する研究 メタ認知的言語化による技能向上 | | | |
| | 向井 太一 | HEPA フィルタのピンホールに関する研究ーピンホール孔径の変化と ETFL モデル適 応の関係ー | | | |
| | 山本 章幹 | 部分的に高強度化した鉄筋を用いた RC 造十字形柱梁接合部部分架構の接合 部アスペクト比が破壊性状に及ぼす実験的研究 | | | |
| | 小笠原 佳子 | 塩害環境下における歴史的建造物に対する補修工法の提案 | | | |
| | 大畑 洋太 | 高強度木質系材料を利用したモーメント抵抗接合の構造性能に関する実験的 研究ー広葉樹パネルを用いた接合部曲げ実験ー | | | |
| | 赤見 尚哉 | 民間収益施設の利用が都市公園の利用者に及ぼす影響ー新宿中央公園を事 例にー | | | |
| | 末口 敬梧 | 地域コミュニティ形成における交流拠点の役割 | | | |
| | 小島 瑚子 | 現代における建物の価値の考察ー社会的要とデジタル化の視点よりー | | | |
| | 瀧口 輝 | 上川アイヌにおけるチセの復元に関する研究ーアイヌ文化の森伝承のコタン内の チセを対象としてー | | | |
| | 奥永 翔喜 | 焼杉外装の改修方法に関する基礎的検討 | | | |
| | 村松 航洋 | 災害拠点病院におけるカーボンニュートラル化に関する研究ー熱源システムの電 化率向上を目的とした冬期運転改善効果の検証ー | | | |
| | 秋山 智哉 | 超高層免震・制振建築物の応答性状 | | | |
| | 軽部 佑太 | 環境選択型 ABW 導入オフィスにおける室内環境測定 | | | |
| | 岡安 詠美 | 大宮駅を中心としたさいたま市大宮区のウォークアビリティに関する研究 | | | |
| | 宮川 昂大 | 東京駅周辺丸の内地区の容積率移転が風環境に与える影響 | | | |
| | 小川 歩乃佳 | 集合住宅の形態と日常生活が交流に与える影響 | | | |
| | 川村 彰梧 | RC 造校舎の補強前後における耐震性能評価 | | | |
| | 福土 璃子 | 西葛西における南アジア系料理店の立地傾向と経営戦略に関する研究 | | | |
| AP コース卒業論文賞 | 古屋 悠里 | スラム街の空間におけるジェンダーに関する研究ーパンコク・クロントイ地区を対象としてー | | | |

大学院理工学研究科建築学専攻

| | | |
|-----|--------|---|
| 総代 | 飯田 雄大 | ジオポリマーコンクリートの強度および耐久設計手法の提案 |
| 有元賞 | 今村 真樹子 | 地域密着型金融の取組みがまちづくりにもたらす役割と可能性 |
| | 東 龍太郎 | シーンの創出過程ーカルロ・スカルパ建築における対象物と視点場の関係性の分 析と設計への応用ー |
| | 山根 佑介 | 上川アイヌにおける建築文化の伝承に関する研究ー復元チセの建設に着目してー |
| 専攻賞 | 金 淵彬 | パルマコスの変則ー醜の美学から考える建築形態の研究ー |
| | 東 満里奈 | 野生動物の回帰現象を示す東京都心部の実態とその追及ーホンダヌキの生態 調査を事例としてー |
| | 天野 稜 | 醜を纏うーポーラスの日本的解釈による実験建築ー |
| | 漆原 史織 | 都市と宗教ー銀座稲荷空間からみた伝統宗教空間の意味と聖なるものー |
| | 小川 裕司 | 東京圏における映画館の出現と消滅ー旧映画街の特殊性と映画館復活手法の提案ー |
| | 小澤 一真 | 熱電一体型地域エネルギーシステムにおける災害時の熱供給ポテンシャルに関する研究ー熱供給ポテンシャルの評価手法及び向上方法の提案と検証ー |
| | 田川 堅太 | 多様な学科を持つ教育機関における学習の特徴と教室形態の関係ー二つの高 等教育機関におけるケーススタディー |
| | 原田 岳信 | 高強度 SFRC 柱の構造性能に関する実験的研究 |
| | 疋島 宗哉 | サブテラヘルツ波を用いたコンクリート中の鉄筋腐食に対する非破壊・非接触型評価手法の提案 |
| | 平田 耕大 | 街の低炭素化と強靱化に貢献するエネルギーインフラに関する研究ーコージェネレーションシステムと蓄電池の連携による向上効果の検討ー |
| | 宮川 彩太 | 首都圏主要駅中心市街地のアーバンデザインセンターー千葉県柏市柏駅と埼玉 県さいたま市大宮駅のアーバンデザインセンターを題材としてー |

芝浦工業大学芝浦建築会

| | | |
|--------|-------|--|
| 芝浦建築会賞 | 中村 開人 | 建築は単なる工学技術の成果ではなく、人文科学や社会科学の知見や成果の賜物です。 |
| | 秋山 智哉 | 専門分野は当然のこと、他の分野も積極的に学び、広範な知識を身につけ活躍することを期待し、 |
| | 堀口 春乃 | 最多単位取得者上位 3 名に芝浦建築会賞を授与し、顕彰しました。 |

表 2 業界研究セミナー登壇者

2023年10月24日（火）

- ・施工分野 / 菅谷 泰誠 様 (2016年卒・大成建設)
- ・意匠分野 / 田口 誉様 (2010年修士卒・Kengo Kuma & Associates)
- ・構造分野 / 市川 瑞生 様 (2016年修士卒・前田建設工業)
- ・設備分野 / 建部 直弥 様 (2016年修士卒・戸田建設)
- ・官公庁 / 龍味 勇太 様 (2015年卒・葛飾区役所)

2023年11月21日（火） 本部棟阿出川シアター（担当：桑田仁教授）

- ・インテリアデザイン分野 / 木庭袋 樹様（ココロ）
- ・建築生産分野 / 小松 智之様（三菱地所設計）
- ・都市計画・設計分野 / 関 華子様（日本設計）
- ・都市計画コンサルタント分野 / 山内 豊季様（ランドブレイン）

2023年度芝浦建築会会費納入者及び寄付者

2023年度の芝浦建築会会費（会員3,000円/年・新会員1,000円/年）納入者及び寄付金を頂戴した皆様には厚く御礼申し上げます。納入していただいた皆様の卒業年と名前を下記に紹介させていただきます。芝浦建築会の益々の活性化、発展のために有効に使わせていただく所存ですが、今後共、更なるご協力の程をよろしくお願い致します。（役員一同）

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 昭46 | 昭47 | 昭48 | 昭49 | 昭50 | 昭51 | 昭52 | 昭53 | 昭54 | 昭55 | 昭56 | 昭57 | 昭58 | 昭59 | 昭60 | 昭61 | 昭62 | 昭63 | 昭64 | 昭65 | 昭66 | 昭67 | 昭68 | 昭69 | 昭70 | 昭71 | 昭72 | 昭73 | 昭74 | 昭75 | 昭76 | 昭77 | 昭78 | 昭79 | 昭80 | 昭81 | 昭82 | 昭83 | 昭84 | 昭85 | 昭86 | 昭87 | 昭88 | 昭89 | 昭90 | 昭91 | 昭92 | 昭93 | 昭94 | 昭95 | 昭96 | 昭97 | 昭98 | 昭99 | 昭100 | 昭101 | 昭102 | 昭103 | 昭104 | 昭105 | 昭106 | 昭107 | 昭108 | 昭109 | 昭110 | 昭111 | 昭112 | 昭113 | 昭114 | 昭115 | 昭116 | 昭117 | 昭118 | 昭119 | 昭120 | 昭121 | 昭122 | 昭123 | 昭124 | 昭125 | 昭126 | 昭127 | 昭128 | 昭129 | 昭130 | 昭131 | 昭132 | 昭133 | 昭134 | 昭135 | 昭136 | 昭137 | 昭138 | 昭139 | 昭140 | 昭141 | 昭142 | 昭143 | 昭144 | 昭145 | 昭146 | 昭147 | 昭148 | 昭149 | 昭150 | 昭151 | 昭152 | 昭153 | 昭154 | 昭155 | 昭156 | 昭157 | 昭158 | 昭159 | 昭160 | 昭161 | 昭162 | 昭163 | 昭164 | 昭165 | 昭166 | 昭167 | 昭168 | 昭169 | 昭170 | 昭171 | 昭172 | 昭173 | 昭174 | 昭175 | 昭176 | 昭177 | 昭178 | 昭179 | 昭180 | 昭181 | 昭182 | 昭183 | 昭184 | 昭185 | 昭186 | 昭187 | 昭188 | 昭189 | 昭190 | 昭191 | 昭192 | 昭193 | 昭194 | 昭195 | 昭196 | 昭197 | 昭198 | 昭199 | 昭200 | 昭201 | 昭202 | 昭203 | 昭204 | 昭205 | 昭206 | 昭207 | 昭208 | 昭209 | 昭210 | 昭211 | 昭212 | 昭213 | 昭214 | 昭215 | 昭216 | 昭217 | 昭218 | 昭219 | 昭220 | 昭221 | 昭222 | 昭223 | 昭224 | 昭225 | 昭226 | 昭227 | 昭228 | 昭229 | 昭230 | 昭231 | 昭232 | 昭233 | 昭234 | 昭235 | 昭236 | 昭237 | 昭238 | 昭239 | 昭240 | 昭241 | 昭242 | 昭243 | 昭244 | 昭245 | 昭246 | 昭247 | 昭248 | 昭249 | 昭250 | 昭251 | 昭252 | 昭253 | 昭254 | 昭255 | 昭256 | 昭257 | 昭258 | 昭259 | 昭260 | 昭261 | 昭262 | 昭263 | 昭264 | 昭265 | 昭266 | 昭267 | 昭268 | 昭269 | 昭270 | 昭271 | 昭272 | 昭273 | 昭274 | 昭275 | 昭276 | 昭277 | 昭278 | 昭279 | 昭280 | 昭281 | 昭282 | 昭283 | 昭284 | 昭285 | 昭286 | 昭287 | 昭288 | 昭289 | 昭290 | 昭291 | 昭292 | 昭293 | 昭294 | 昭295 | 昭296 | 昭297 | 昭298 | 昭299 | 昭300 | 昭301 | 昭302 | 昭303 | 昭304 | 昭305 | 昭306 | 昭307 | 昭308 | 昭309 | 昭310 | 昭311 | 昭312 | 昭313 | 昭314 | 昭315 | 昭316 | 昭317 | 昭318 | 昭319 | 昭320 | 昭321 | 昭322 | 昭323 | 昭324 | 昭325 | 昭326 | 昭327 | 昭328 | 昭329 | 昭330 | 昭331 | 昭332 | 昭333 | 昭334 | 昭335 | 昭336 | 昭337 | 昭338 | 昭339 | 昭340 | 昭341 | 昭342 | 昭343 | 昭344 | 昭345 | 昭346 | 昭347 | 昭348 | 昭349 | 昭350 | 昭351 | 昭352 | 昭353 | 昭354 | 昭355 | 昭356 | 昭357 | 昭358 | 昭359 | 昭360 | 昭361 | 昭362 | 昭363 | 昭364 | 昭365 | 昭366 | 昭367 | 昭368 | 昭369 | 昭370 | 昭371 | 昭372 | 昭373 | 昭374 | 昭375 | 昭376 | 昭377 | 昭378 | 昭379 | 昭380 | 昭381 | 昭382 | 昭383 | 昭384 | 昭385 | 昭386 | 昭387 | 昭388 | 昭389 | 昭390 | 昭391 | 昭392 | 昭393 | 昭394 | 昭395 | 昭396 | 昭397 | 昭398 | 昭399 | 昭400 | 昭401 | 昭402 | 昭403 | 昭404 | 昭405 | 昭406 | 昭407 | 昭408 | 昭409 | 昭410 | 昭411 | 昭412 | 昭413 | 昭414 | 昭415 | 昭416 | 昭417 | 昭418 | 昭419 | 昭420 | 昭421 | 昭422 | 昭423 | 昭424 | 昭425 | 昭426 | 昭427 | 昭428 | 昭429 | 昭430 | 昭431 | 昭432 | 昭433 | 昭434 | 昭435 | 昭436 | 昭437 | 昭438 | 昭439 | 昭440 | 昭441 | 昭442 | 昭443 | 昭444 | 昭445 | 昭446 | 昭447 | 昭448 | 昭449 | 昭450 | 昭451 | 昭452 | 昭453 | 昭454 | 昭455 | 昭456 | 昭457 | 昭458 | 昭459 | 昭460 | 昭461 | 昭462 | 昭463 | 昭464 | 昭465 | 昭466 | 昭467 | 昭468 | 昭469 | 昭470 | 昭471 | 昭472 | 昭473 | 昭474 | 昭475 | 昭476 | 昭477 | 昭478 | 昭479 | 昭480 | 昭481 | 昭482 | 昭483 | 昭484 | 昭485 | 昭486 | 昭487 | 昭488 | 昭489 | 昭490 | 昭491 | 昭492 | 昭493 | 昭494 | 昭495 | 昭496 | 昭497 | 昭498 | 昭499 | 昭500 | 昭501 | 昭502 | 昭503 | 昭504 | 昭505 | 昭506 | 昭507 | 昭508 | 昭509 | 昭510 | 昭511 | 昭512 | 昭513 | 昭514 | 昭515 | 昭516 | 昭517 | 昭518 | 昭519 | 昭520 | 昭521 | 昭522 | 昭523 | 昭524 | 昭525 | 昭526 | 昭527 | 昭528 | 昭529 | 昭530 | 昭531 | 昭532 | 昭533 | 昭534 | 昭535 | 昭536 | 昭537 | 昭538 | 昭539 | 昭540 | 昭541 | 昭542 | 昭543 | 昭544 | 昭545 | 昭546 | 昭547 | 昭548 | 昭549 | 昭550 | 昭551 | 昭552 | 昭553 | 昭554 | 昭555 | 昭556 | 昭557 | 昭558 | 昭559 | 昭560 | 昭561 | 昭562 | 昭563 | 昭564 | 昭565 | 昭566 | 昭567 | 昭568 | 昭569 | 昭570 | 昭571 | 昭572 | 昭573 | 昭574 | 昭575 | 昭576 | 昭577 | 昭578 | 昭579 | 昭580 | 昭581 | 昭582 | 昭583 | 昭584 | 昭585 | 昭586 | 昭587 | 昭588 | 昭589 | 昭590 | 昭591 | 昭592 | 昭593 | 昭594 | 昭595 | 昭596 | 昭597 | 昭598 | 昭599 | 昭600 | 昭601 | 昭602 | 昭603 | 昭604 | 昭605 | 昭606 | 昭607 | 昭608 | 昭609 | 昭610 | 昭611 | 昭612 | 昭613 | 昭614 | 昭615 | 昭616 | 昭617 | 昭618 | 昭619 | 昭620 | 昭621 | 昭622 | 昭623 | 昭624 | 昭625 | 昭626 | 昭627 | 昭628 | 昭629 | 昭630 | 昭631 | 昭632 | 昭633 | 昭634 | 昭635 | 昭636 | 昭637 | 昭638 | 昭639 | 昭640 | 昭641 | 昭642 | 昭643 | 昭644 | 昭645 | 昭646 | 昭647 | 昭648 | 昭649 | 昭650 | 昭651 | 昭652 | 昭653 | 昭654 | 昭655 | 昭656 | 昭657 | 昭658 | 昭659 | 昭660 | 昭661 | 昭662 | 昭663 | 昭664 | 昭665 | 昭666 | 昭667 | 昭668 | 昭669 | 昭670 | 昭671 | 昭672 | 昭673 | 昭674 | 昭675 | 昭676 | 昭677 | 昭678 | 昭679 | 昭680 | 昭681 | 昭682 | 昭683 | 昭684 | 昭685 | 昭686 | 昭687 | 昭688 | 昭689 | 昭690 | 昭691 | 昭692 | 昭693 | 昭694 | 昭695 | 昭696 | 昭697 | 昭698 | 昭699 | 昭700 | 昭701 | 昭702 | 昭703 | 昭704 | 昭705 | 昭706 | 昭707 | 昭708 | 昭709 | 昭710 | 昭711 | 昭712 | 昭713 | 昭714 | 昭715 | 昭716 | 昭717 | 昭718 | 昭719 | 昭720 | 昭721 | 昭722 | 昭723 | 昭724 | 昭725 | 昭726 | 昭727 | 昭728 | 昭729 | 昭730 | 昭731 | 昭732 | 昭733 | 昭734 | 昭735 | 昭736 | 昭737 | 昭738 | 昭739 | 昭740 | 昭741 | 昭742 | 昭743 | 昭744 | 昭745 | 昭746 | 昭747 | 昭748 | 昭749 | 昭750 | 昭751 | 昭752 | 昭753 | 昭754 | 昭755 | 昭756 | 昭757 | 昭758 | 昭759 | 昭760 | 昭761 | 昭762 | 昭763 | 昭764 | 昭765 | 昭766 | 昭767 | 昭768 | 昭769 | 昭770 | 昭771 | 昭772 | 昭773 | 昭774 | 昭775 | 昭776 | 昭777 | 昭778 | 昭779 | 昭780 | 昭781 | 昭782 | 昭783 | 昭784 | 昭785 | 昭786 | 昭787 | 昭788 | 昭789 | 昭790 | 昭791 | 昭792 | 昭793 | 昭794 | 昭795 | 昭796 | 昭797 | 昭798 | 昭799 | 昭800 | 昭801 | 昭802 | 昭803 | 昭804 | 昭805 | 昭806 | 昭807 | 昭808 | 昭809 | 昭810 | 昭811 | 昭812 | 昭813 | 昭814 | 昭815 | 昭816 | 昭817 | 昭818 | 昭819 | 昭820 | 昭821 | 昭822 | 昭823 | 昭824 | 昭825 | 昭826 | 昭827 | 昭828 | 昭829 | 昭830 | 昭831 | 昭832 | 昭833 | 昭834 | 昭835 | 昭836 | 昭837 | 昭838 | 昭839 | 昭840 | 昭841 | 昭842 | 昭843 | 昭844 | 昭845 | 昭846 | 昭847 | 昭848 | 昭849 | 昭850 | 昭851 | 昭852 | 昭853 | 昭854 | 昭855 | 昭856 | 昭857 | 昭858 | 昭859 | 昭860 | 昭861 | 昭862 | 昭863 | 昭864 | 昭865 | 昭866 | 昭867 | 昭868 | 昭869 | 昭870 | 昭871 | 昭872 | 昭873 | 昭874 | 昭875 | 昭876 | 昭877 | 昭878 | 昭879 | 昭880 | 昭881 | 昭882 | 昭883 | 昭884 | 昭885 | 昭886 | 昭887 | 昭888 | 昭889 | 昭890 | 昭891 | 昭892 | 昭893 | 昭894 | 昭895 | 昭896 | 昭897 | 昭898 | 昭899 | 昭900 | 昭901 | 昭902 | 昭903 | 昭904 | 昭905 | 昭906 | 昭907 | 昭908 | 昭909 | 昭910 | 昭911 | 昭912 | 昭913 | 昭914 | 昭915 | 昭916 | 昭917 | 昭918 | 昭919 | 昭920 | 昭921 | 昭922 | 昭923 | 昭924 | 昭925 | 昭926 | 昭927 | 昭928 | 昭929 | 昭930 | 昭931 | 昭932 | 昭933 | 昭934 | 昭935 | 昭936 | 昭937 | 昭938 | 昭939 | 昭940 | 昭941 | 昭942 | 昭943 | 昭944 | 昭945 | 昭946 | 昭947 | 昭948 | 昭949 | 昭950 | 昭951 | 昭952 | 昭953 | 昭954 | 昭955 | 昭956 | 昭957 | 昭958 | 昭959 | 昭960 | 昭961 | 昭962 | 昭963 | 昭964 | 昭965 | 昭966 | 昭967 | 昭968 | 昭969 | 昭970 | 昭971 | 昭972 | 昭973 | 昭974 | 昭975 | 昭976 | 昭977 | 昭978 | 昭979 | 昭980 | 昭981 | 昭982 | 昭983 | 昭984 | 昭985 | 昭986 | 昭987 | 昭988 | 昭989 | 昭990 | 昭991 | 昭992 | 昭993 | 昭994 | 昭995 | 昭996 | 昭997 | 昭998 | 昭999 | 昭1000 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|

イベント写真



建築学科の学位記授与式



卒業式で芝浦建築会賞を授与する功刀会長



業界研究セミナーの様子

2024年度役員

会 長： 功刀 強1976卒
 副 会 長： 百瀬和浩1985卒 川口英樹1990卒 秋元孝之（建築学部長）
 事 務 局： 事務局長 鈴木 泉1986卒 事務局員 宮谷 敦1986卒
 会 計： 郷田修身1991卒 浅見 勝1976卒
 会計監査： 辻村 建1971卒 加治喜久夫1974卒
 幹 事： 松寿 章1978卒 片倉隆幸1981卒 道田 淳1993卒
 下田恭子1997卒 水谷晃啓2007卒 徳田直之2009卒
 井筒悠斗2023卒
 濱崎 仁（SAコース代表） 志手一哉（UAコース代表）
 山代 悟（APコース代表）
 顧 問： 田口継道1964卒 枝広英俊1971卒 染谷 清1969卒

会計報告

2023年度 会計報告

| 収入 | | |
|----------|--------------------------|-----------|
| 繰越金 | | 1,974,248 |
| 年会費 | 170名×3,000円 | 510,000 |
| 前年度会費 | 19名×3,000円 | 57,000 |
| 新会員会費 | 317名×1,000円 | 317,000 |
| 寄付 | 109名 | 282,000 |
| 校友会支部助成金 | 150,000円（定額）・58,000円（定率） | 208,000 |
| 総会お祝い金 | 理事長・校友会会長 | 40,000 |
| | 計 | 3,388,248 |

| 支出 | | |
|---------|-------------------------|---------|
| 会報 | 印刷1,100部、封筒670枚、払込票670枚 | 114,400 |
| 同上封入代 | 目隠しシール、返信ハガキ670枚 | 34,160 |
| 同上発送料 | 83円×612通 | 50,796 |
| 同上追加送料 | 94円×15通 | 1,410 |
| 定期総会案内状 | 往復はがき392通、印刷代 | 82,172 |
| 同上デザイン | 構成料他 | 110,000 |
| 大学寄付 | 大学100周年事業・地方学生支援金 | 100,000 |
| 芝浦建築会賞 | 卒業生3名、賞及び記念品 | 110,624 |
| 学校行事支援 | デザインチャンピオンシップ | 90,377 |
| 総会懇親会 | 補助費 | 53,000 |
| 校友会 | 全国総会・懇親会支部賛助金 | 20,000 |
| 事務費 | 振込手数料 | 990 |
| | 郵送料 | 5,090 |
| 郵貯銀行トーク | ワンタイムパスワード生成機 | 1,650 |
| | 計 | 774,669 |

次期繰越金 **¥2,613,579**

2024年度 予算案

| 収入 | | |
|----------|--------------------------|-----------|
| 繰越金 | | 2,613,579 |
| 年会費 | 200名×3,000円/年 | 600,000 |
| 新卒員会費 | 300名×1,000円/年 | 300,000 |
| 寄付 | 100名 | 250,000 |
| 校友会支部助成金 | 150,000円（定額）・50,000円（定率） | 200,000 |
| | 計 | 3,963,579 |

| 支出 | | |
|--------|-------------------|-----------|
| 会報 | 印刷2,000部、封筒1,500枚 | 300,000 |
| 同上発送料 | 1,500通 | 210,000 |
| 同上デザイン | 構成料他 | 110,000 |
| 学校行事支援 | デザインチャンピオンシップ | 150,000 |
| 総会案内状 | 封筒・返信ハガキ・印刷1,500部 | 250,000 |
| 在学生の顕彰 | 優秀者への記念品等の授与 | 150,000 |
| 卒業パーティ | 出席と祝辞 | 20,000 |
| 校友会 | 全国総会・懇親会支部賛助金 | 20,000 |
| 事務費 | ゆうちょ銀行印字サービス料 | 3,000 |
| | 払込手数料 | 2,000 |
| | HP維持費 | 120,000 |
| 予備費 | 講座、レクチャー等 | 500,000 |
| | 計 | 1,835,000 |

繰越金 **¥2,128,579**

会費納入のお願い

会員の皆様には、年会費（¥3,000-）の納入をお願いします。

○ゆうちょ銀行 振替 00160-9-187243 芝浦工業大学芝浦建築会
 ○他行ATM等からの場合は、ゆうちょ銀行〇一九 当座 187243

※振込用紙には住所、氏名、卒業学科名、卒業年、勤務先、連絡先電話番号を記載願います。

※会費以外にも寄付金（1口1,000円〜）のご協力をお願いします。

あとがき

芝浦建築会は設立から3年を迎えました。昨年度は、同窓の多様な分野で活躍されておられる方々との交流を実現するために、校友会支部の一員としても活動の場を広げることができました。また、学位記・表彰状授与式では、卒業生に建築のもつ学問領域の広さや深さを実感し、社会での活躍を祈念して「芝浦建築会賞」を授与し、顕彰いたしました。これからも役員一同、卒業生、大学、在校生との交流の場を広げる活動を展開してまいります。第3号となる本会報でも実社会で活躍されている多くの卒業生から寄稿がありました。寄稿をいただきました皆さまにはここであらためてお礼を申し上げ、編集に携わった方々、協力をいただきました方々にも感謝申し上げます。 【1985年 建築工学科卒 百瀬和浩】